第２３回タウンミーティングの意見交換内容について

■日　時：平成３０年１月３１日（水）午後７時～８時３０分

■場　所：五福公民館　ホール

■参加者：熊本市教育委員会（遠藤教育長、森委員、泉委員、出川委員、小屋松委員、西山委員）、市内在住者（28名）

No.	質問・提案・要望等	回　答	担当課
1	**学校教育における生き抜く力を養う教育について** 熊本地震の際の避難所運営を通じ、「危機管理の意識」という点で危惧することがある。 「自分の身は自分で守る」といったような観点も必要であると考えており、学校教育において、例えば火の起こし方やテントの張り方等、生き抜く力を養うような教育を行ってはどうか。	特別活動の（学級活動）の指導内容の中に、「事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること」があり、危険を回避するために必要な情報を収集し、命を守るべく、よりよく判断する力を育てる学習は、現在でも行われている。さらに、防災教育に関しては、副読本等も作成し、命を守るということに対して、意識を高める教育に力を入れていく予定である。＜教育委員＞ 危険を予見する力を養うことは、重要であると考える。学校教育の中だけでなく、地域・家庭と共に子どもたちの教育のあり方について検討することが重要。＜教育委員＞	指導課
2	**・相談体制について** 心のサポート相談員をやっている。 H30年度から、相談員数が減らされ、相談対応時間も減らされる方針であることを知った。 地震での心のケアが優先されるのはわかるが、教員も親も忙しい。だからこそ、（我々のような）心のサポート相談員が必要ではないのか。	心のサポート相談員の重要性は認識している。ただし限られた予算の中で総合的に考慮すると、削減せざるを得ない状況であり、苦渋の決断となった。御理解いただきたい。＜事務局＞ 予算面等もあり、すべての相談体制を拡充することは難しいが、全体的に相談体制を縮小するわけではない。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等で充実を図る。＜教育長＞ いろいろな立場の相談相手や窓口があった方がいいと考える。＜教育委員＞	総合支援課
3	**・学校現場における防災意識について** 学校現場も防災意識が高くなっていっていると感じるが、他の地域（学校）でも防災意識は向上しているのか。	現在、市でも校区ごとに避難所担当職員を決め、施設管理者である学校も含めて、地域の皆様と一緒に校区防災連絡会を設置する体制づくりを進めている。地域で自主的に避難所を運営していけるよう、地域の状況に応じて考えてもらう。教育と危機管理の部局とでしっかり連携していきたい。＜教育長＞ 地域で経験のある方の話を聞いておくことや、事前に災害時の対応について、地域でルールを決めることは非常に有効である。地域の特性や被害状況によって対応は異なるため、校区防災連絡会を通じ、地域でのマニュアル作成、避難訓練等を実施する必要があると考える。＜教育委員＞	危機管理防災総室
	市全体として、防災意識の向上に努めてほしい。	―	
4	**・和式トイレから洋式トイレの移行について** 学校が避難所となり、約1,400名の避難者が出たが、多くは高齢者であり、和式トイレを使用することが困難な状況であったため、トイレを洋式化してほしい。	現在、１／３程度は洋式化している。一部では和式トイレが良いという声もあるが、洋式化を望む方が多いので、継続的にトイレの洋式化を実施していきたい。＜教育長＞	施設課

No.	質問・提案・要望等	回　答	担当課
5	**・公民館と交流センターの使用料の相違について** 五福公民館会議室と五福まちづくり交流センター会議室の使用料免除について、学校教育活動で五福まちづくり交流センターを使用する際に、使用料が減免となるよう「五福まちづくり交流センター会議室使用料減免要綱」の改正をしてほしい。 学校教育、社会教育ともに使い勝手がよくなるような公民館、交流センターの改革を求める。	「五福まちづくり交流センター」の使用料に関する規定を教育委員会で所管していないため、関係部署と協議していきたい。学校教育としての利用と社会教育としての利用のバランスも考慮する必要がある。<教育長> 地域にある公共の施設をより良い施設にしていくため、このように声をあげていくことが重要であると考える。<教育委員>	五福交流室
6	**・不登校児童生徒数の増加について** 熊本市において、不登校の児童生徒が増加傾向にあるとのことだが、何が原因と考えられるのか。	不登校となってしまう「きっかけ」が過去と比較して変化しているようである。以前は「遊び方の違い」が主で友人関係が不登校のきっかけとなってしまうことが多かったが、近年では「無気力」「なぜ学校に行きたくないのかわからない」といった理由が目立つ。<事務局> 子どものコミュニケーション能力が低下しており、家庭からの自立が出来ていないように感じる。<教育委員> スマホの普及に伴うSNSの利用者増など、直接相手の顔を見ながらコミュニケーションを図るという状況が少なくなっていることも原因ではないか。学校教育だけでなく、家庭教育の重要性を見直すべき。<教育委員>	総合支援課
7	**・家庭教育の重要性について** 現代は女性の社会進出が進む中、昔と「家庭」のあり方が変化している。 子どもの教育をすべて学校に任せるのではなく、学校教育と家庭教育の役割分担（線引き）を明確にすべきだと考えるが、いかがか。	おっしゃるとおり。家庭教育の重要性は本市においても十分認識している。また、教員の多忙化が課題となっている中、地域の協力もいただきながら教育の質の向上に努めていきたい。<教育長>	教育政策課・青少年教育課